

## 5.15 沖縄平和行進に参加して

全港湾九州地方博多支部 青柳詠治

2026年5月15日～18日にかけて、復帰54年5.15沖縄平和行進に参加させていただきました。この行進には全国から2,000人以上が参加し、沖縄の平和と軍事基地撤去を訴えるために集まりました。参加者は、沖縄の歴史や基地問題に触れる機会を持ちつつ、地域の人々と交流を深めました。

初日は5.15沖縄平和行進全国団結式が行われました。各地から集まった参加者は、沖縄の歴史や行進の目的について説明を受け、また、別に、三単産行進団結決闘式を行いました。

2日目は、参加者は早朝から集まり、平和を訴えるシュプレヒコールをあげ、各地方ののぼりを持って約12kmの行進を開始しました。行進の途中では右翼団体からの妨害もありましたが無事スムーズに行進を終えることができました。特に、普天間基地や嘉手納基地第1ゲートなど、基地問題の中心地を訪れることで、現地の課題を肌で感じることができました。行進、視察終了後は青年部BBQ交流会に参加させていただき、沖縄の方々の準備の様々な方々とのコミュニケーションを取りました。このようなBBQ交流会の準備、片付けを行っていただき感謝申し上げます。

3日目は、嘉手納道の駅、ひめゆり資料館、平和記念公園を視察し、沖縄戦の歴史や現在も続く基地問題、平和の尊さについて改めて深く考える機会となりました。嘉手納道の駅では、嘉手納基地の広大さや航空機の離発着を間近で見ること、基地が地域住民の生活と隣り合わせに存在している現状を実感しました。騒音問題や安全面への不安など、ニュースだけでは分からない現地ならではの課題を肌で感じることができました。

ひめゆり資料館では、沖縄戦当時の悲惨な状況や、学徒隊として動員されたひめゆり学徒の体験に触れ、戦争が若い世代の未来や日常を奪った現実にも胸を打たれました。展示資料や証言からは、戦争の悲惨さと平和の大切さが強く伝わってきました。また、平和記念公園では、戦没者の慰霊碑や平和祈念資料を通して、多くの尊い命が失われた歴史を改めて認識しました。静かな空間の中で平和について考える時間を持つことができ、戦争を二度と繰り返してはならないという思いを強くしました。

この行進を通じて沖縄の現状を深く理解し、平和を願う気持ちがさらに強くなったと感じました。特に、地元の人々との交流や被爆者の証言が心に残り、自分たちの行動が少しでも平和に貢献できることを信じて、これからも活動が続けたいと思いました。最後に、今回の活動で少しでも何かが変わったのであれば幸いです。